

FFGのお取引先企業をご紹介します。

岡野バルブ製造 株式会社

代表取締役社長 **岡野 正敏**氏

取引店 福岡銀行 門司駅前支店



グリーンテック 株式会社

代表取締役会長 **松木 三男**氏

取引店 熊本ファミリー銀行 本店営業部



学校法人 九州文化学園

理事長 **安部 直樹**氏

取引店 親和銀行 浜田町支店





岡野バルブ製造 株式会社

岡野 正敏氏

創 業：1926年11月 設 立：1936年2月
 所 在 地：福岡県北九州市 資 本 金：1,286百万円
 従 業 員：370名
 事業内容：バルブ設計・製造・メンテナンス
 主な製造品目：原子力発電、火力発電、その他産業用プラントに納入するバルブ
 製造拠点：本社・門司工場(福岡県北九州市) 行橋工場(福岡県行橋市)

火力・原子力発電所用、高温高压バルブのトップメーカー

- 当社は今から83年前の1926年に私の祖父が創業して以来、日本の技術革新の進展にあわせて、様々な分野で日本初、世界初となるバルブを開発・製造してまいりました。現在ではバルブの素材開発から設計・製造、そして現在の当社の売上の6割を占めるメンテナンスまで担う世界でも唯一の一貫メーカーとして、国内外の火力・原子力発電所をはじめ、あらゆる工業分野にバルブを納入しており、発電所用バルブの国内シェアの約6割を占めています。

高温高压バルブの国産化を目指して創業

- 創業者岡野満は三菱合資会社に勤務しておりましたが、世界第一のボイラーメーカーであった英国のバブコック&ウィルコックス社が日本に進出するにあたり、英語のできる技術者を探しており、請われてバブコック社に移りました。当時西日本の素材・エネルギー産業の中心であった門司に西日本地区の総支配人と

して駐在し、数百台のボイラーの販売実績をあげると共に、その据付け・メンテナンスに従事しておりました。バブコック社のボイラーは世界一の名声を誇っていましたが、最もトラブルが起きるのは付属して輸入されるバルブであり、これに頭を痛めておりました。取替品、部品等を輸入するには数カ月を要しておりこれでは間尺に合わない、ボイラー技術者としてバルブを使用する立場から、何とかして国産化すべきとの考えを持ち、高温高压バルブの製造を自ら行う決意をしたのです。これが当社の起源です。当社の製品に表示されている商標「SUPERO」には、その時の「外国製品を超えてみせたい」という思いが込められています。本来はボイラーメーカーを立ち上げるのが夢であったのですが、膨大な資金を要するため断念したと聞いています。創業者がボイラーメーカーの技術者、言い換えればバルブのユーザーであった為、ユーザーの立場、即ちお客様の立場に立ってバルブを製造しようという精神が今日まで脈々と受け継がれています。

日本のバルブ業界の先駆者としてバルブ技術の発展に貢献

- 当社が国産第一号となる高温高压バルブを九州電力の前身である西部共同火力に納入したのは創業から11年後の1937年のことです。こ

のバルブ開発において技術的に最もネックとなったのは、バルブの生命である弁座面の焼き付きでした。これを解決すべく新材料を模索していた祖父は削岩機の先端に使われていたステライトに着目し、試行錯誤をくり返しながら溶接技術を開発、世界で最初に弁座面へのステライト採用に成功し、実用化したしました。ステライトの実用化は世界初の快挙であり、現在でも世界標準の技術となっております。これが当社を飛躍させる原動力となりました。

こうした当社の実績は高い評価を受け、その後、日本初の原子力発電所である東海発電所に数多くのバルブを納めるなど、約100万台に及ぶバルブを製造・納入してまいりました。当社では製造したその全てのバルブの設計図面、生産工程管理記録、補修箇所、修理や部品交換記録をカルテのように保管し、計画的・効率的なメンテナンスや安全性向上のための改善に役立ててきました。

こうした取組みを通して、当社ではバルブ本体の製造だけでなく、日本のバルブ技術発展へも貢献してまいりました。

匠の技によって100%を究める

- 100%への挑戦、それが当社の製造技術の歴史でした。火力・原子力発電所用のバルブは、超高温・超高压下においても蒸気等が漏れること

のないよう 1/1,000mm単位の精度が求められています。当社の製品は多品種少量生産であるため、当社ではオリジナルの加工設備や治工具を取り揃え、多様かつ精度の高い加工を行っておりますが、1/1,000mm単位の高い精度を実現するための最後の仕上げには、今も熟練技術者の手の感触が活躍しています。99%の完成度を持つ製品に、たった1%、けれども大きな1%を付け加えることができるのは、長年の経験を持つ者だけが感じることでできる1/1,000mmの感触なのです。

その一方、人の目では見えない製品内部の亀裂など、人の能力では対応できない部分への対応については最新の機器を導入しています。こうして、人と先端技術両方による、100%を究めるための「匠の技」を社内に構築しております。

匠の技の継承に注力し、技術革新の芽を育てる

- 当社では、そのような有形無形の「匠の技」を継承していかなければならないと考え、マイスター制度や様々な研修制度を導入しています。分野によっては一人前になるまでに20年ほど要するものもあるため、長期的な視点での育成に努めています。マイスター制度は創業当初から伝承しているものであり、若い技術者がベテラン技術者から数年間マンツーマンで指導を受けながら技術の習得に日々研鑽を重ねています。また、研修センターでは、原子力発電所構内を模した環境でメンテナンス技術を磨いています。さらに、大学教授を招いて技術系の若手社員等を対象にした「岡野テクニカル・カ

レッジ」を社内で週2回のペースで開催し、材料力学・流体力学・電機電子回路学・電気磁気学・基礎数学講座などを教えています。

匠の技の継承と同時に、技術研究所では、バルブ材料の研究・開発、構造・部品の開発・改良およびメンテナンス機器・ソフトウェアの開発等を積極的に行っており、21世紀に求められる技術革新の芽を確実に育てています。

来るべき次の時代の到来に向けて

- 最近、地球温暖化問題への対応から、原子力発電への注目が集まっており、国内外で原子力発電所建設の動きが起きています。当社はこれまでのバルブ設計・製造・メンテナンスから得た技術・ノウハウに新たな要素を加え、来るべき次の時代へ向けての業容の充実・拡大に会社を挙げて取り組んでおります。

今日まで当社はその創業の精神「先進一步」をモットーに業界をリードして来ました。これからも、素材から製品そしてメンテナンスまで、バルブのライフサイクルを通して社会に貢献することに、その使命と価値を見出し、常に社会とお客様にとって必要な企業として存在し続けるための挑戦をこれからも続けてまいります。



当社製品



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明

日本初・世界初の技術や製品を次々に生み出し、発電所用バルブのトップメーカーとして活躍されている当社は、「お客様の立場に立つ」という創業時の精神を80年以上経った今でも大切にしております。また、製造現場においては、モノづくりの根底となる技術の継承、技術者の育成にも取り組まれていらっしゃいます。

このように堅実な取組みを徹底しながら、常に一步先に進み続ける当社が、私たちの生活に欠くことのできない電力供給を支える発電所用バルブのトップメーカーとして、今後も更に活躍されることを期待しています。
(6月1日からクールビズを実施しています)



視察風景



左から 岡野社長、谷頭取、中平支店長



グリーンテック株式会社 松木 三男氏

設 立：1972年12月 所 在 地：熊本県熊本市
資 本 金：81百万円 従 業 員：106名
事業内容：農業薬剤等の卸販売業
主な取扱品目：化学農薬・生物農薬・肥料・農業用資材及び農機具の卸販売
営業拠点：本社（熊本県熊本市）および16営業所（九州内）

7社のM&Aを経て、九州トップ企業へ

- 1972年に、私が株式会社大商を熊本市に設立したのが当社のはじまりです。

その後、これまでに鹿児島・大分・佐賀・福岡・熊本など、九州各地の同業6社との合併や事業譲受、いわゆるM&Aを行った結果、九州7県に16営業所を有し、域内の農薬流通量の約1/4を取り扱う九州トップ企業へと成長しました。

現社名のグリーンテック株式会社は、2006年に株式会社アグリサポート（熊本県宇城市）と合併した際に商号変更したものです。

事業環境の変化に対応して規模を拡大

- 当社は農薬の卸販売業を中心としていますが、この40年で事業環境は大きく変化しました。70年代は農産物の「増産」が重視され、農薬大量消費の時代でした。それが、近年では「安全・安心・

高品質」が重視され、農薬残留問題などが注目される時代へと変化しました。農薬販売量が伸び悩む中、複雑な取引慣習も事業の効率を妨げる要因となっていました。今後、農薬業界も医薬業界同様、全国規模による業界再編が進むものと考えています。

当社としては、経営効率の向上を図るために事業規模を拡大し、結果として7社の中小企業が統合した企業体となりました。この規模拡大により、営業エリアは九州全域に広がり、取扱量の拡大がメーカーとの関係強化に繋がりました。また、業界経験を積んだ優秀な人材を確保出来たことでも、7社のM&Aは成功したと考えています。

経営効率化に向けた全社的な取組み

- さらに当社は、複雑な取引慣習を数値化するためにITを積極的に活用した利益管理システムの構築に取組みました。また、受発注システムをIT化した結果、受注から出荷確認までの時間は大幅に短縮され、受発注ミスも減少するなど当社の経営効率改善に大きく貢献しました。

こうした取組みの背景には、個々の社員の協力が不可欠でした。例えば、IT操作の不得手な社員

は、自らパソコン教室に通うなど地道な努力を行い、当社方針の実践に取り組んでくれました。手前味噌になりますが、こうした姿勢には経営者として感謝しています。

業界の繁栄は当社の繁栄と位置づけ、積極的な業界活動を展開

- 農薬の流通過程には、当社など卸業者を経由した「商系」ルートと、全農を経由する「系統」ルートがあり、卸販売では商系流通が約60%、系統流通が約40%のシェアとなっています。

この「商系」ルートの全国組織が「全国農薬協同組合」（全農薬）であり、国内の約180の卸業者が加盟しています。私はその理事長を、今期で4期務めています。2007年10月にはこの全農薬が主体となり、大手メーカーとの業界統一受発注システムを構築しました。受発注業務の合理化・効率化などを通じて、農薬業界の繁栄に貢献することは、当社の繁栄にも繋がるものと考えています。

また、「食の安全」を守るという観点から、農薬の安全推進運動、適正使用の普及活動においても、九州のトップシェアを持つ企業として、当社の責務は大きいと考えています。

については、当社の販売先への安全推進運動や技術サービスを拡充

するとともに、化学農薬を補完するものとして期待される、天敵並びに微生物を利用した生物農薬の普及にも注力しています。

社員の自発的な意欲を引き出す

- 当社では年1回、全社員と関係メーカー並びに金融機関をお招きし、300人規模での業績報告・新年度事業計画・諸表彰等を内容とする会を開催し、社員のモチベーション向上を図っています。

また、農薬の安全指導、適正使用に関しては、社員個々の知識修得が重要となるため、当社では業務関連資格の取得を奨励し、そのサポートに努めています。その結果、本社スタッフまでが、自発的に資格取得するなど、当社の方針が社員に浸透しています。現在では毒劇物取扱資格者49名、農薬指導士32名、農薬安全コンサルタント28名など、延べ139名の資格取得者が社内に誕生しています。こうした自発的な姿勢が、社員の

間で自然に受け継がれていく人材育成が我が社の強みとなっています。

当社の将来展望

- エンドユーザーである農業者のニーズ多様化に因るため、産業用無人ヘリコプターによる請負防除を今年度より事業化しました。機体メーカーの協力を得て、当社には6名のオペレーターが誕生しました。比較的小面積でも農薬散布が出来る無人ヘリは潜在需要が見込まれるため、早期の普及拡大に努めています。

また、肥料並びに種苗などの取扱品目を拡大し、農業生産資材総合卸を目指します。

営業基盤につきましては、九州北部・西部での拠点設置を進め、九州内の営業基盤の拡充を目指し、さらに経営環境の変化に対応するため、九州域外への商圈拡大についても意欲的に検討しています。



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 鈴木 元

農薬業界の事業環境が大きく変化する中で、九州をリードする企業のトップとして、また業界全体のリーダーとしてのご苦労は大変なものであると拝察します。7社の企業を「一体感」のある企業体に統合され、同時に業界全体の発展につながる統一受発注システムの構築に尽力されるなど、数々の重責を全うしてこられたのは、松木会長の手腕に負うところが多大であると感じます。

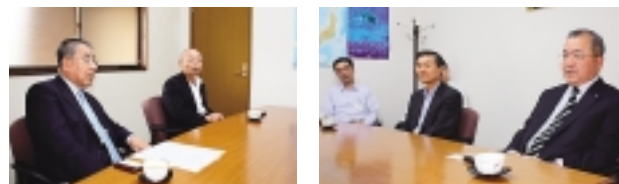
今後も様々な変化に対応していかれることを確信しています。



防除用無人ヘリコプター



前列左から 松永社長、酒井本店営業部長、鈴木頭取、松木会長





学校法人 九州文化学園 安部 直樹氏

創 業：1945年12月 設 立：1947年2月
 所 在 地：長崎県佐世保市 従 業 員：339名
 事業内容：教育
 事業拠点：長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園歯科衛生士学院、
 九州文化学園調理師専修学校、九州文化学園高等学校、
 九州文化学園高等学校衛生看護専攻科、
 九州文化学園幼稚園(長崎県佐世保市)

焼け野原の中で生まれた学校設立の決意

- 1945(昭和20)年、敗戦による貧困と動乱のなか、九州文化学園は誕生しました。創設したのは私の父である安部芳雄です。戦前、佐世保工業高校に勤務していた父は、焼け野原となった大地に立ちつくしながら、「この敗戦した日本を再建するのは若者たちに違いない。彼らがその力を発揮するには教育しかない。銃と剣で失ったものを、ペンと筆で取り戻すのだ。」と、この佐世保の地に学校をつくることを決意したのです。

すしづめの汽車に丸4日間揺られて上京し、文部省に学校設立の認可を求めたものの容易には認められず、様々な人たちの助力を得てようやく各種学校「九州文化学院」として認可を受けることが出来ました。

時代が求める人材育成の受け皿を整備

- その後、各種学校から専門学校への昇格(1947年)、付属中学校の誕

生(1948年)、高等学校 共学から後に女子専への開校(1951年)などを経て、1966年に私どもの悲願でもあり学園の中核ともいえる九州文化学園短期大学が誕生しました。当初は食物科のみの設置でしたが、後に保育学科と英語科を加えて長崎短期大学へと改称するなど、学びの内容もより高度なものになっていきました。

既に開校していた高等学校には食物科(1968年)、衛生看護科(1970年)、保育科(1976年)を新設して充実を図ったほか、1971年に九州文化学園調理師専修学校、1980年には九州文化学園歯科衛生士学院を開校し、短大を中核とした高等教育を基本に、食、保育、看護、医療分野という時代が求める人材を育成する受け皿を揃えていきました。

長崎国際大学の開学と薬学部の設置

- 時代の節目である2000年に、本学園は大きな飛躍の時を迎えます。長崎県と佐世保市および地元経済界の支援による「公私協力方式」によって、長崎国際大学が誕生したのです。この大学は当初、人間社会学部(国際観光学科、社会福祉学科)の1学部2学科で開学しましたが、その後2002年に健康管理学部(健康

栄養学科)さらに2006年に薬学部(薬学科)を開設するとともに、大学での学びを深化させる人間社会学研究科(修士課程・博士後期課程)、健康管理学研究科(修士課程)も2004年以降、順次設置いたしました。また、大学の薬学部設置と同時期に、専門学校、高校、幼稚園を新キャンパスに移転し、学園全体の教育環境の大幅な改善に取り組みました。

九州文化学園の建学の精神

- 私たちが掲げる建学の精神は、「高い知性と豊かな教養」「たくましい意志と健康な身体」、そして「優れた徳性と品格」です。「高い知性」は大学および大学院の高度な研究と教育に象徴され、「たくましい意志」は、たとえば高校女子バレーでの全国大会11回優勝など、スポーツ部における輝かしい実績がそれを表しています。さらに「品格」は、学園の基本理念ともいふべき「茶道の心」によって、確実に実践されています。

人間教育の基本理念は茶道に息づく品格ともてなしの心

- 本学園がその創立以来、60有余年にわたって培ってきた人間教育の基本理念が、「茶道文化=茶道の心」です。茶道の基本は「座」にあり

茶を点てる者と飲む者が同じ空間に座ります。大学に置きかえれば教員と学生が、あるいは先輩と後輩が、ともに同じ目線で向き合い、互いを敬いながら支えあうこと、そこに生まれるしなやかな所作と品格、“もてなしの心”こそ、“九州文化学園の精神”といえます。

本学園では二十九代平戸藩主松浦鎮信ちんしんが興した武家茶道「鎮信流」を、長崎短期大学および九州文化学園歯科衛生士学院では必修科目、長崎国際大学では選択科目として教育カリキュラムに取り入れ、私が講義を受け持っています。茶道を通じて自国の伝統文化を理解し、その文化が現代にも継承されていると認識することは、国際社会と接する時に求められる国際性の涵養に大きく役立っています。また、社会生活に必要な常識やマナーの習得にもなり、茶道を通じて教員や学友との交流にもつながっています。

地域とともに発展する学校法人

- 本学園は1945年の創立以来、佐

世保市の教育の一翼を担うべく、時代のニーズに即した学校教育を行ってまいりました。現在では大学から幼稚園までの教育機関を有し、更には本学園のグループ施設として福祉施設（三川内保育園、世知原福祉会）、医療機関（長崎リハビリテーション病院）、株式会社（ザ・グローバルズ、ケイ・エム・サポート）を設立するに至っております。

本学園は総合学園として、各学校や部門が相互に協力して支援する組織です。たとえば、長崎リハビリテーション病院は医療の立場から、世知原町（長崎県佐世保市）の福祉施設は福祉の立場から、さらに保育園は児童保育に対する実践的立場から、それぞれの教育を支援し、高い見識と実践力を備え地域に役立つ人材の輩出に努めています。

教育、福祉、医療、そして様々な事業展開へと、私ども九州文化学園は佐世保市の発展と共に、地域に根ざした教育環境の整備と人材育成にこれからも邁進してまいります。



親和銀行
取締役頭取 鬼木 和夫

敗戦直後の佐世保において、教育への情熱によって産声をあげた九州文化学園は、時代の要請に応えながら成長してこられました。そして、長崎国際大学の開学、同大学薬学部の開設など、名実ともに総合学園としての地歩を固めておられます。

「鎮信流」免許皆伝の理事長自ら「茶道」の講義を担当しておられ、創業以来人間教育の基本理念として掲げてこられた「茶道の心」は、これからも当学園の建学の理念として受け継がれていくものと確信しております。

（6月1日からクールビズを実施しています）



大学薬学部研究室



大学図書館



茶道文化棟「自明堂」



長崎国際大学大講義室



大学中庭